

## 講演会及び研究集会の記録

## 単位の実質化の方策を探る —第4回弘前大学FDワークショップ—

弘前大学に所属する教員の授業改善の取り組みの一環として、弘前大学FDワークショップが毎年開催されており、平成19年度は4回目になります。第4回弘前大学FDワークショップは、平成19年6月9日（土）から6月10日の1泊2日で黒石温泉郷落合温泉「ホテルちとせ屋」を研修場所として実施されました。前年度までは、21世紀教育センターが主催し、教育・学生委員会が共催という形で行われていましたが、平成19年度からは21世紀教育センターと教育・学生委員会が主催することになりました。これは、本ワークショップに、弘前大学着任5年未満の教員に対する初任者研修の役割が付加されたためです。これにより、平成19年度の本ワークショップ参加者は、教職員合わせて、37名（1名欠席）という規模になりました。

平成19年度の研修テーマは、「単位の実質化の方策」です。大学の授業の根幹である単位制度が形骸化し、学生や教員に単位制度の本来の目的が理解されていない現状があります。「単位の実質化」とは、単位制度の本来の趣旨に沿った学習量を確保することで、学修時間の考え方や修業年限の問題等を改めて整理し、課程中心の制度設計をすることを意味します。弘前大学FDワークショップでは、平成18年度にも「単位の実質化」をテーマとして取り上げましたが、平成19年度は、この「単位の実質化」をより具体的にするための、学生の能動的な学習を促進する授業の進め方や効果的な授業シラバスの作成方法について研修を行いました。

研修1日目は、須藤新一副学長が「何も教えずに教える」という題の挨拶から始まり、その中で、「ティーチング・ポートフォリオの重視」が強調されました。次に、矢島忠夫21世紀教育センター長が、「21世紀教育—その生まれと育ち（3）」という題の挨拶を行いました。その後、大高明史21世紀教育センター副センター長が「21世紀教育のFD活動：現状と課題」、木村宣美21世紀教育センター副センター長が「弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ（教育者総覧）による授業改善について」というミニレクチャーを行いました。更に、土持法一21世紀教育センター副センター長により「FDの義務化と初任者研修の意義」の題で基調講演が行われました。

昼食後、研修者はAからEまでの5グループ（各5名）に分かれて実質的な研修作業に入りました。今回の研修の課題は、単位の実質化と学生の能動的な学習を促す具体的な授業（21世紀教育科目のテーマ科目）を設計することでした。まず、「学習目標：単位の実質化と能動的学習」と題して土持副センター長がミニレクチャーを行い、それに基づいて、「授業の設計1：授業の副題・目標の設定」を決定するグループ作業に入りました。その後、各グループによる発表・全体討論が行われ、グループAは「ネットワーク社会の問題」、グループBは「生活習慣と健康」、グループCは「環境・地球温暖化」、グループDは「環境破壊を考える」、グループEは「健康と暮らし」という授業の副題を設定しました。次に、休憩を挟んで、「学習方略：授業シラバス」と題して土持副センター長がミニレク





ハウジー大学での研修成果を報告しました。

研修2日目は、土持副センター長の「評価：ラーニング・ポートフォリオ」と題するミニレクチャーで始まりました。これに基づき、「授業の設計3：(学習方略の手直しと)評価」を決定するグループ作業を行い、その後、各グループの成果の発表・全体討議を行いました。全体討議の中で、グループCの「成績評価にワークシート方式を活用する」という提案や、グループDの「ポスターセッションの利用」などが注目を集め、また出席点の取り扱いについても活発な議論がなされ、予定時間を大幅に超過する事態となりました。

最後に参加者の感想・意見が述べられました。その中で、土持副センター長から、今回のワークショップで提案された授業の中には、実際に21世紀教育の授業の一つとして開講出来そうなもの、あるいは、開講できれば非常に有益であると考えられるものがあるといふことがあり、これらのワークショップの具体的な成果をカリキュラムの一環として実施を目指すという趣旨の発言がありました。

今回のワークショップにおいては、単位の実質化の方策という本来の研修のテーマが重要な事項として取り上げられたのは当然ですが、これだけでなく、ティーチング・ポートフォリオの重要性がいくつかの講演・レクチャーで繰り返し取り上げられ、強調されており、これが第二の研修テーマとなっていました。

チャーを行いました。これに基づき「授業の設計2：(目標の手直しと)・学習方略」を決定するグループ作業を行い、その後、各グループの成果の発表・全体討議を行いました。

夕食後、講演会が開催されました。まず、小谷田文彦人文学部准教授が「公開授業をしてみよう」の題で、同僚に対する公開授業が教員の授業の見直し・改善に有効であることを、自らの体験を踏まえて報告しました。次に、中村敏也保健学研究科教授が、「ティーチング・ポートフォリオを書いてみよう」の題で、カナダのダル



(備考：『21世紀教育センターニュース』より転載)